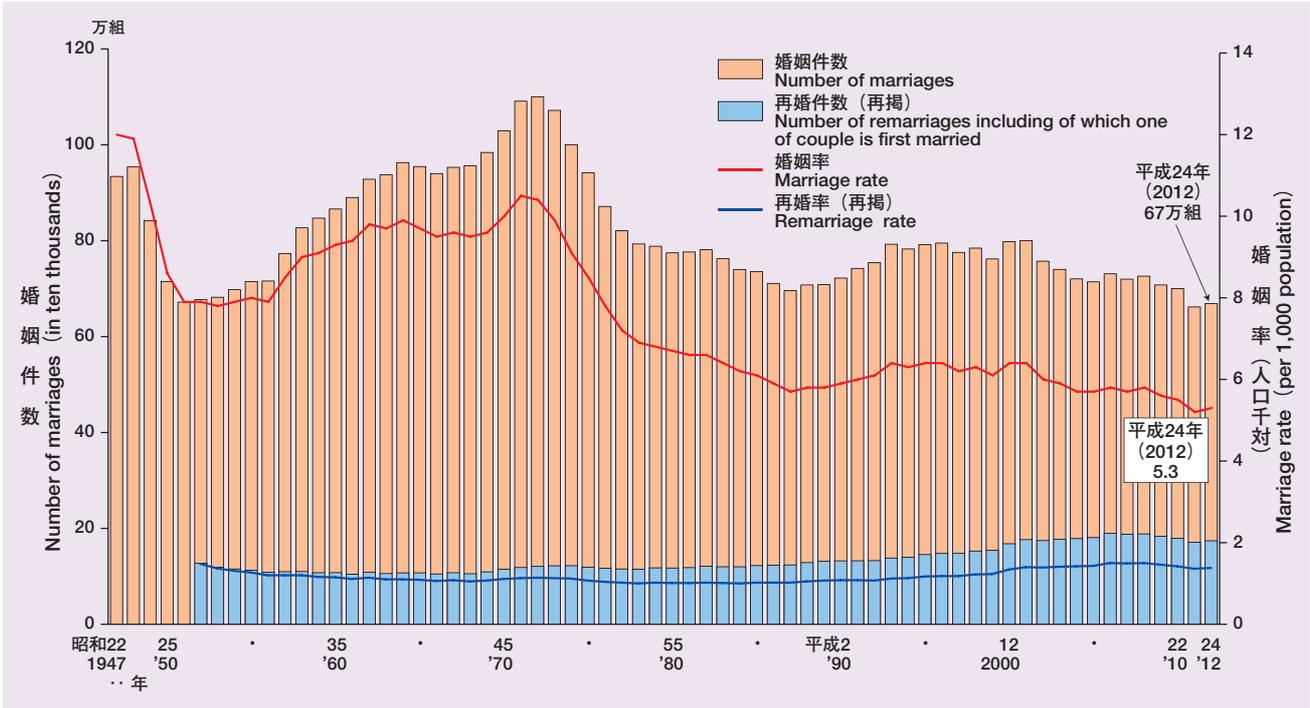


婚姻の動き Marriages

婚姻件数は増加

婚姻件数及び婚姻率の年次推移—昭和22～平成24年—

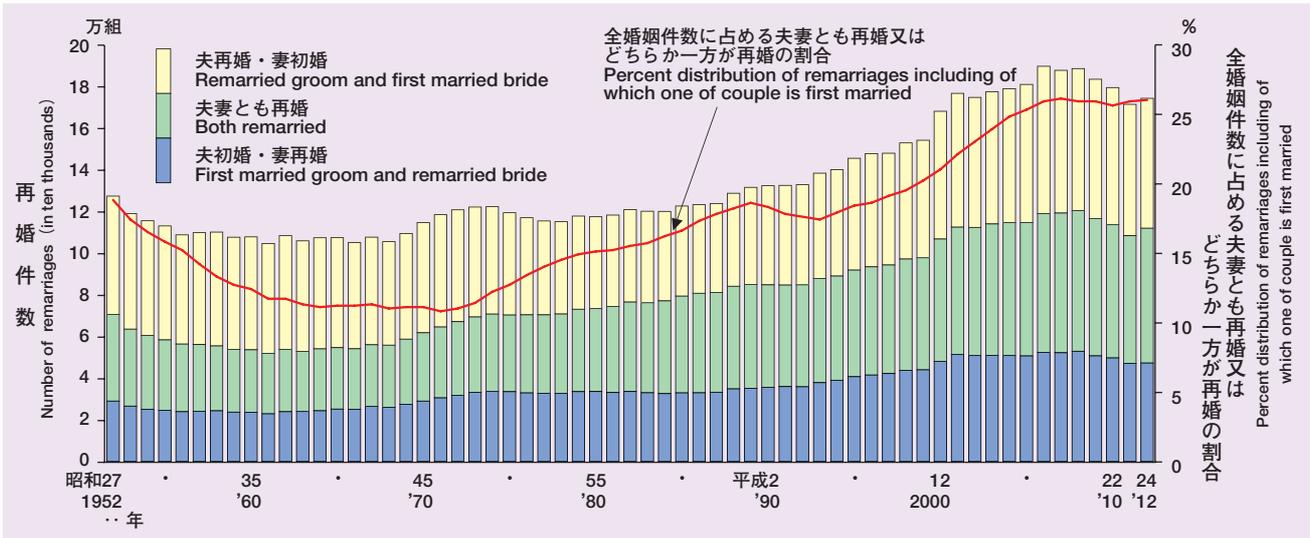
Trends in marriages and marriage rates, 1947—2012



注：再婚件数・再婚率（人口千対）は、夫妻とも再婚又は夫妻のどちらか一方が再婚の件数・率である。

夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移—昭和27～平成24年—

Trends in remarriages including of which one of couple is first married, 1952—2012



平成24年の婚姻件数は66万8869組で、前年より6974組増加した。

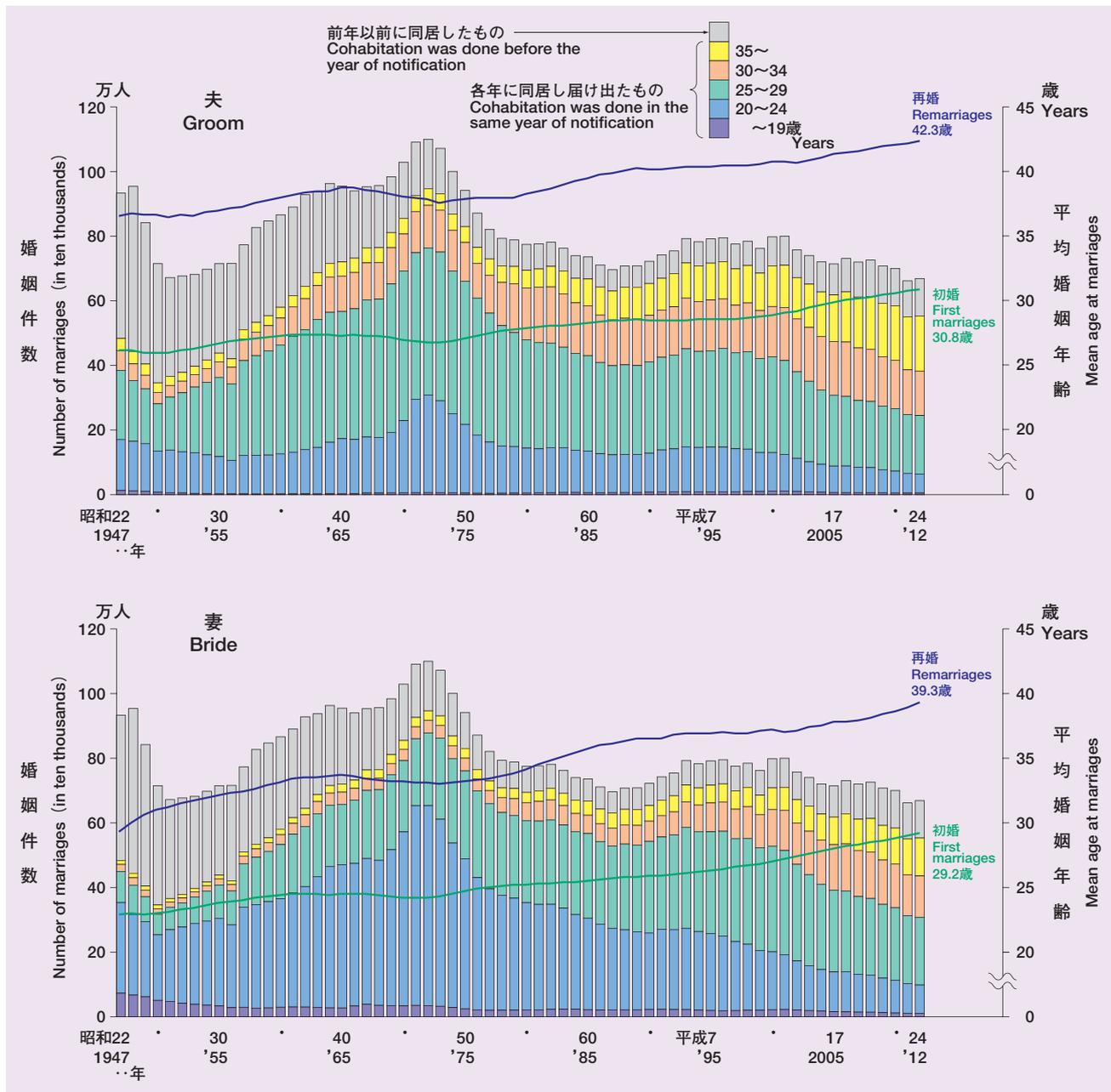
婚姻件数の年次推移をみると、終戦直後の昭和22、23年の第1次婚姻ブームの後に急激に減少したが、20年代後半以降は増加傾向となり、45年には第2次婚姻ブームを迎え、47年には110万組となった。48年から減少傾向の後、63年から増加に転じた。平成6年以降は増減を繰り返す、14年からは減少し続けていたが、18年以降は再び増減を繰り返した。21年からは減少が続き、23年は戦後最低となったが、24年は増加した。

また、初婚—再婚別にみると、平成24年は「夫妻とも初婚」は49万4749組（全婚姻件数の74.0%）で、「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」は17万4120組（同26.0%）となっている。

「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」を組み合わせて別みると、「夫再婚—妻初婚」は6万4622組、「夫妻とも再婚」は6万2330組、「夫初婚—妻再婚」は4万7168組となっている。

夫・妻ともに進む晩婚化

夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移—昭和22～平成24年—
Trends in marriages by age of bride and groom at marriage, and mean age, 1947—2012



注：昭和42年までは結婚式をあげたときの年齢、43年以降は結婚式をあげたときと同居を始めたときのうち早いほうの年齢である。

各年に同居し届け出たものについて、年齢階級別に年次推移をみると、夫・妻とも昭和20年代後半から47年までの約20年間では20歳代の増加が著しい。その後、夫の20歳代、妻の20～24歳は減少傾向に転じた。妻の25～29歳は引き続き増加傾向にあったが、平成13年以降減少を続けている。また、夫・妻とも30～34歳、35歳以上は昭和20年代後半から増加傾向が続いていたが、夫の30～34歳は平成19年以降減少を続けている。24年では夫・妻とも、25～29歳が18万1201人、20万9574人と最も多く、次いで夫は35歳以上の17万594人、30～34歳の13万7401人、妻は30～34歳の12万7891人、35歳以上の11万7322人となっている。

夫・妻の平均初婚年齢の年次推移をみると、昭和22年では夫26.1歳、妻22.9歳であり、その後、20年代半ばから30年代半ばにかけて上昇した。第2次婚姻ブーム期の昭和47年前後に低下したが、その後再び上昇し続け、平成24年には夫30.8歳、妻29.2歳となった。平成24年は昭和22年に比べ夫は4.7歳、妻は6.3歳高くなっており、夫・妻とも晩婚化が進んでいる。また、平均再婚年齢をみると、昭和22年では夫36.5歳、妻29.3歳であったが、平成24年には夫42.3歳、妻39.3歳となり、年々上昇傾向にある。

*平成24年に届け出られた婚姻件数は66万8869組で、そのうち、24年に同居した婚姻は55万3040組、前年以前に同居した婚姻は11万5829組である。